

コメント

1. 腸管出血性大腸菌感染症

第26週以降9件の報告があり、今年の合計は13件となっています。

2. ヘルパンギーナ

定点当り2.38人と減少し、ピークは超えたものと考えられますが、依然として多い状態にあります。安芸区では15.0人と特に多く、佐伯区3.0人となっています。

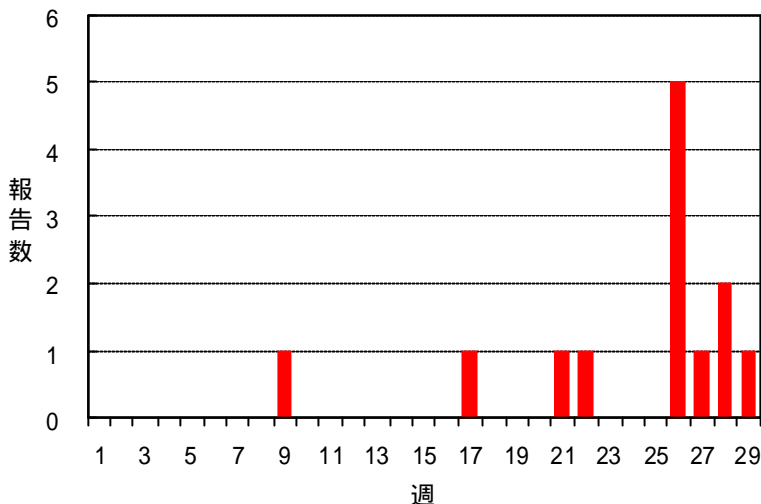
3. 水痘

定点当り1.13人とやや増加しています。

4. 咽頭結膜熱

定点当り0.50人とやや減少しています。南区1.3人、東区1.0人となっています。

腸管出血性大腸菌感染症(2006年第29週まで)



5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号
インフルエンザ(注2)	-	-	-		麻疹(注3)	-	-	0.02	
咽頭結膜熱	12	0.50	0.57		流行性耳下腺炎	10	0.42	1.39	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	19	0.79	0.73		RSウイルス感染症	-	-		
感染性胃腸炎	87	3.63	2.83		急性出血性結膜炎	1	0.13	0.08	
水痘	27	1.13	1.19		流行性角結膜炎	10	1.25	1.10	
手足口病	7	0.29	7.29		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	11	0.46	0.43		無菌性髄膜炎	4	0.57	1.46	
突発性発疹	15	0.63	0.89		マイコプラズマ肺炎	3	0.43	0.17	
百日咳	-	-	-		クラミジア肺炎(注4)	-	-	0.03	
風疹	1	0.04	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	57	2.38	4.35						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1.1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1) 過去5年間の同時期平均(定点当り)
 (注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く
 (注3) 成人麻疹を除く
 (注4) オウム病を除く

1類～5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	13	男性(30歳代)・O157
5	急性脳炎	1	7	女性(10歳代)

5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

			インフルエンザ (注1)		A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん
報告数	広島市	第25週	20	16	36	109	66	11	21	22	1	-	68	-	31	-	-	2	-	9	10	-	-
		第26週	15	13	32	138	55	5	17	15	-	2	76	-	27	-	-	6	-	5	3	-	-
		第27週	3	16	25	128	27	10	29	17	-	-	102	-	21	-	-	6	-	4	3	-	-
		第28週	2	16	32	124	19	9	32	20	-	-	106	-	17	-	-	11	-	10	6	-	-
		第29週	-	12	19	87	27	7	11	15	-	1	57	-	10	-	1	10	-	4	3	-	-
定点当り	広島市	第25週	0.54	0.67	1.50	4.54	2.75	0.46	0.88	0.92	0.04	-	2.83	-	1.29	-	-	0.25	-	1.29	1.43	-	-
		第26週	0.41	0.54	1.33	5.75	2.29	0.21	0.71	0.63	-	0.08	3.17	-	1.13	-	-	0.75	-	0.71	0.43	-	-
		第27週	0.08	0.67	1.04	5.33	1.13	0.42	1.21	0.71	-	-	4.25	-	0.88	-	-	0.75	-	0.57	0.43	-	-
		第28週	0.05	0.67	1.33	5.17	0.79	0.38	1.33	0.83	-	-	4.42	-	0.71	-	-	1.38	-	1.43	0.86	-	-
		第29週	-	0.50	0.79	3.63	1.13	0.29	0.46	0.63	-	0.04	2.38	-	0.42	-	0.13	1.25	-	0.57	0.43	-	-
全国	第27週	0.34	1.33	1.65	3.48	1.65	1.66	0.61	0.79	0.01	-	4.24	0.01	1.68	0.03	1.41	0.02	0.08	0.42	-	-	-	
	第28週	0.28	1.48	1.37	3.20	1.48	1.93	0.76	0.81	0.01	0.01	4.19	0.01	1.78	0.03	1.50	0.01	0.11	0.40	0.01	-	-	

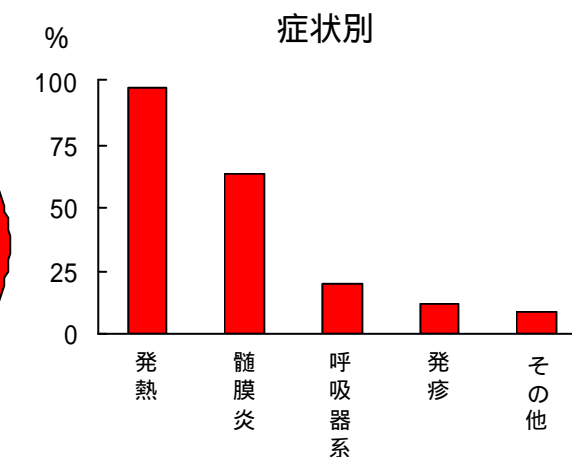
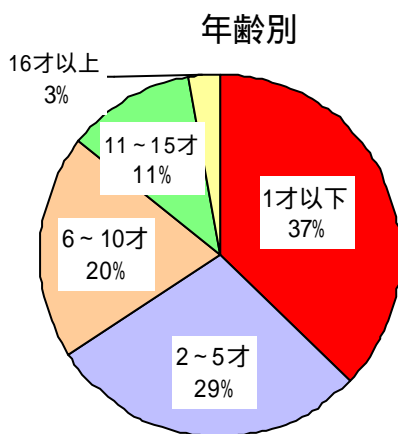
(注1)高病原性鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	0	女	2006/06/06	咽頭拭い液	パレコウイルス
流行性耳下腺炎	7	男	2006/06/09	髄液	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	6	男	2006/06/08	髄液	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	不明	男	2006/06/10	髄液	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	4	男	2006/06/14	髄液	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	14	男	2006/06/17	髄液	エコーウイルス18型
手足口病(疑)	0	男	2006/06/08	咽頭拭い液	パレコウイルス
川崎病 (MCLS)	1	男	2006/06/05	咽頭拭い液	エコーウイルス18型

【参考】広島市におけるエコーウイルス18型検出患者の年齢と症状内訳

(2002年～2006年)



患者数 = 35人

広島市では、2002年以降35人からエコーウイルス18型が検出されています。

本年は、エコーウイルス18型の検出数が多く、7月14日判明分までで、22人から検出され、過去4年間の13人を大きく上回っています。

エコーウイルス18型の検出状況は、年齢別では、1歳児以下が最も多く、低年齢層の患者が目立っています。主要症状は発熱、髄膜炎で、呼吸器系症状や発疹等もみられます。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2006年第29週 (7月17日～7月23日)